

---

=== 日程第4 一般質問 ===

○議長（村松 積） 日程第4、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、4番、宮嶋怡正君、1番、小池昌人君、3番、金田憲治君、2番、串原寛治君、以上5名から通告されております。

---

◇ 宮 嶋 清 伸 ◇

○議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

宮嶋清伸君。

○6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

村長の施政方針の方にも触れておりましたが、リニアについては早期に着工をしていただいて、地域の経済の立て直しと海外へのリニア技術の売り込みなどが必要じゃないかと私は考えております。

今回、下條村の行政視察が350件を超え、いまだ視察が絶えない状況ではありますが、そんな中、2月に福島県の泉崎村へ議会視察に行きまして勉強をしてきました。

そこで東北の下條村を目指す久保木村長のお話を聞き、泉崎村の庁舎、議場を見学し、庁舎とは対照的な各施設と国体など誘致し、広大な土地にある施設などを見学してきました。下條とは全然違う、福島は平らなとこだなと感想があります。

そこで今回私は、この下條村がより一層輝く下條となる提案をして、村長のお考えを聞くものです。

まず、下條村の環境施策について村長のお考えをお聞きします。

下條村は、地球温暖化対策のため、桐林のクリーンセンターへの生ごみ減量化のために生ごみ処理機やコンポストなどの低価格のものにも補助金を出していることは、地域柄畑や土地のある家庭には有効な施策だと考えております。また、利便性を追求してディスポーザーの検証のため、マイ処理槽で処理をして合併浄化槽の汚泥をなくす方法等このたびはディスポーザーで粉碎を乾燥させる方法などにも積極的な検証に取り組んでおられます。そのディスポーザーの現状と今後の取り組みについて、村長のお考えをお聞きします。

次に、このたび試験的に実施された防災倉庫への断熱塗料等の件ですが、断熱塗料を塗布した場合と未塗布の場合ではどのような結果が出たのか。また、夏場と冬場ではどのよ

うな違いが出たのかお聞きします。また、その結果を踏まえて今後どのような取り組みをしていくのかをお聞きします。

続きまして年々増加傾向の障害を持った生徒さんの自立を支援する飯田養護学校ですが、この施設は喬木村にあり、南部地区からは遠方になります。そこまで通学したり寄宿舎に入っている生徒さんもおられます。そこで現在、南部地区から通っている生徒さんの現状がどのようになっているかお聞きしたいと思います。

そしてまた私はこの現状を踏まえて、南部地域に分校という形でも良いので養護学校の設置が必要ではないかと考えますが、村長のお考えをお聞きします。

以上で私の質問を終わります。

○議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

議員は議員のライフワークとして、いくつかの重点施策をお持ちでございます。それに向かって永続的に努力されておることに敬服申し上げるとともに、特に今一番問題点となりました環境問題、これについて積極的に提言されたり、また視察されたりいろいろ調査しておっていただきまして、そのことについても本当にその姿勢に感謝申し上げる次第でございます。

ここで広域の中で、ごみはどういうふう処理しておるかということの体系を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

南信州広域連合というのを組みました。これは全国的にも非常に広域連合としてうまくいっておる例でございます。その中で消防だとか要するに介護等それから医療等も含めてやっておりますけれども、一番の問題点は生活から出るごみでございます。このことについては、桐林に7～8年前に広域で作りました。最新炉ということで、約50億円くらいかけて作ったわけでございます。

そしてこの分類の仕方でございますけれども、埋め立てごみはそれぞれの市町村で責任を持ってやるということが1つ。それから資源ごみ、瓶や缶やこのことについては、指定してある業者をお願いしております。

そこで燃えるごみ、燃えるごみの中にも問題は今言ったように、野菜くず等が入っておるわけございまして、これが非常に困るわけでございます。本来ならばこれはこれでコ

ンポスト堆肥工場を作ってやればいいんですけども、なかなかその適地がないということ。下條村でも過去に積極的に3年ほどやりました。3年やってやってやりまくって最終的にはおじゃんになったという経緯もあるわけでございます。

出すものを処理するところは作れと、その代わり下條村は作ってはいけないよということがこれが全国的な風潮でございます。必要なんだけど、迷惑行為はどっかへ持っていけというような形が今横行しておるわけでございますし、それもうなずけないことはないわけございまして、この桐林、あの場所に焼却炉を作るということになると、大変な問題がありましたけれども、それは私ども一生懸命説得していただいて、一生懸命理論武装しておっていただいて、今順調に推移しておるわけでございます。

ところが、コストが毎年相当かかるわけでございまして、今ごみというのは一番問題はダイオキシンでございまして、ダイオキシン出さないようにするのは1,300度以上に温度を上げると。それでダイオキシンは死ぬわけでございまして、ダイオキシンの特性として冷め際にゆっくり冷まさせておるとダイオキシンがまた再発生するという珍しい物質でございまして。

そのためにものすごい温度を上げておいて、そして焼却灰については早くさらに高温の中で灰を溶かしてガラス化にする。そしてその残った灰をどうするかということになると、もたもたしておるとまたその灰の中にダイオキシンが再合成されるわけございまして、急速に冷やして、そのご承知のようにキレート処置。その灰を細かなコンクリートにして、そして草津まで持っておっていただくというのが1つの流れでございまして。

その1,400度に上げるというところにおいて、燃えるごみと一緒に生ごみ、生ごみというのはもう90何%が水でございまして、燃やさなければいけないところへ水を放り込んでおるということで、当然助燃剤、燃料をものすごく食うわけでございまして、今それで困っておるのが原因でございまして。

そこで議員提案のように、早く生ごみは生ごみで処理しましょうということで、広域でもいろいろやっております、私も途中経過を報告した経緯があると思っておりますけれども、例えば今阿智村にあります。これはもうちょっとがたがたきっておるんですけども、まだまだ余剰能力があるんですけども、広域のものを受け入れるなんていうことの余裕はないということでございまして、変なところへ入れてもし何か起きたら大変でございまして、これもあきらめる。そして2系統でどっかへ作りましょうというんですけども、2系統

にするとまた改修のコストもかかるということで、今やむなくやっておるわけでございます。

今言うように、私の村としても、基本的には農家の皆さんというのは土地はいくらでもあるわけでございますので、畑へ放ってそこに埋めていただくということは大筋でやっておっていただきます。

その他としては、今までに128基の生ゴミ処理機及びコンポストの機械を補助金で入れました。まだだいぶ増えていくということでございまして、うれしいことかなということと同事に、出るものを粉碎して、そして水と一緒に処理槽へ入れて、そして処理すれば一番いいんですけども、これはヨーロッパ、アメリカを含めて全部ディスポーザーでめちゃめちゃに砕いて、そして全部最終処理場で処理しておるわけでございますけれども、あの地域というのは処理場がまるで広大でございまして、湖みたいな処理場があるわけございまして、そこでやっております。だからヨーロッパでもアメリカでもディスポーザーという粉碎器は非常に充実しております。

そこで下條村も一度やってみました。まず役場にやってみましたけれども、役場の場合は処理槽が大きいわけでございますのでうまくいっておるわけでございますけれども、日本の規格としては排水の管の直径が非常に狭いということでございまして、時々詰まるという恐れがありました。各家庭へも3つか4つモデルケースとしてやっていただいたんですけども、そういう問題がありましてこれはやめました。

それからあと2基ということは、2つの種類をやって、そしてモデルケースとしていくつもの家庭に2年間くらいずつやっていただきました。これが非常に家庭における差があるということ、それから気候によって非常に差が出るということでございまして、どうしてもいい結果が出なかったということで、まだ何かあるわけだということで、今度3種類目をやりました。これは粉碎するところまでは同じでございます。そこで分離器へ入れると。分離器へ入れて徹底的に遠心分離のような形で水分を抜いてしまう。その水分の抜いたのは当然処理槽へ入れるわけでございますけれども、そして水分を抜いた徹底して少なくなったものを今度はある時期に取り出すということでございまして、一週間にあれ一週間に一度くらいか、2〜3カ月に一度本当あの野菜というのは粉碎して水を水分とってしまえばたいしたことはないわけございまして、そのものにやるようにして既にモニターを募っております5件モニターを募っております。

1基が113,400円ということでございます。本来ならば20万円くらいする予定だそうでございますけれども、モデルケースで使うんですからぜひ頼むということでお願いしております。

113,400円の中で、個人負担は8万円していただきます。これは5戸でございまして、今5戸既に23年3月14日から18日の間までに5戸に取り付けるようになっておる。これはおすすめ品であろうと思いますので、今度はいい結果になると思います。

それからもう1つでございますけれども、断熱材のキルコート。これも議員にはキルコートの会社まで行っていただいていろいろ見ていただきました。ちょうどいいことに今度は防災倉庫2つ買いました。同じものでございまして同じ条件でございます。

そのキルコートをその全体に塗ってどのような成果があるかということをやりました。ここにデータが出ております、正確なデータがありますけれども、夏の試験結果でございますけれども、8月26日、特に今年は猛暑でございまして、8月の26日から9月5日まで、日中の平均外気温が31.1度の時でございますけれども、塗装した倉庫においては塗装前は39度ありました。39度密閉しておるわけで当然でございますけれども、塗装後は33.7度ということで、最高33.7度ということで効果があるもんだなということでございます。

塗装しなかった倉庫、それはもう一台同じものがあるわけでございますけれども、これは38.5度でございました塗装前は。塗装後は39.2度ということでございまして、これは相当上がりました。効果があるなということでございます。

今、冬はどうかということでございますけれども、冬は塗装した倉庫は平均外気温がマイナス0.6の時にマイナス1.5ということでございまして、これ予想していなかったわけでございますけれども、塗装した倉庫の方が外気温より中が低くなってしまっておるということでございます。塗装しなかった場合は外気温がマイナス0.6の時1.9度ということでこの差が出たということでございます。

それでこのことは、物を長期保存させるための条件となるということで、倉庫内の温度の差というのは低ければ低いほどいいんですけれども、これがあまり下がってしまつては効果が薄れるということでございまして、冬場対策としてもう少し床の面を何とかするかということをお気をつけなければいけないなということと、キルコートというのは素晴らしいもんだなということもわかりました。

今後の対応でございますけれども、今後建設またメンテする場合には、こうした正式な表が出ておるわけでございますので、これらを踏まえてコストの面と一緒に考えなければいけないということと、いつも課題になっておるホースの収納庫でございます。これは村内にいくつもありますけれども、収納庫に表に塗るということもしてみます。これは全部じゃなくて。それと収納庫も寒暖の差が激しくてはいけないということでございまして、断熱材も収納庫の中に入れるという問題。

それからもう1つ今提案されているのは廃材、要するに間伐材、これらもうまくしてやろうじゃないかということで、民間の大工さんからも申し出がございました。これらも踏まえながらやっていかないと、使わなくて角が切れてしまうとホースが非常に多いわけでございますので、これから積極的にやっていくつもりでございます。

3番目の飯田養護学校の阿南分校はどうかということでございます。

現在の養護学校は、175名の方が喬木の養護学校に入っております。南部では阿南町3名、売木で1名、泰阜2名、下條村4名、計10名でございます。この中で寄宿舎を利用しているのは阿南町3名、売木1名の4名でございます。下條村では子供直接送っていったりいろいろしておるわけでございます。川路駅まで行けば川路駅までは迎えに来るということでございまして、今それをやっておっていただきます。

寄宿舎を利用していない生徒は下條だけでございますけれども、なんとしても南部地方へ置きたいということでございますけれども、先ほど県の財政状況を申し上げました。なかなか今議長会でも県に陳情に行っておりまして、それから広域の中でもだんだん陳情の力を強めていきたいわけでございますけれども、これもそう簡単にいかない問題があるわけございまして、本来ならばここの学校へ入れてもらった方がいいのかなという指導のあるお子さんでも、その家庭にとりましては大変なことでございます。なんとしてもこの普通の学級へ置いてくれと。

それからいろいろの課題があって、非常にメンタルな面も難しい面があるわけでございますので、これらを慎重にやっておるわけでございますけれども、このたび教育委員会の方からこっちの南部の方へ視察に来て、下條村へも1月ころ、県の教育委員会で下條村に来て、下條村の小学校には1月28日、31日に訪問して実態を見ていただきました。それらを踏まえてまたひとつ実態を見に来た教育委員会の話も聞いて、そして我々の要望も聞いて、それをお互いに咀嚼しあいながら今の時代でございますのでやっていくつ

もりでございます。

以上で答弁を終わらせていただきます。

○議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。

6番、宮嶋清伸君。

○6番（宮嶋 清伸） 宮嶋です。

答弁の中で養護学校については、県の方の予算の関係のことがあるということで、そうはいってもやはり我々議会としてもそうですし、村長の方も働きかけの方をお願いしたいと思います。

そういうわけでディスポージャー、これを毎回毎回私ディスポージャーの話をさせてもらうわけですけれども、成果がいいものが出そうだということですから、その中で下條村、若者定住策ということでメゾンなど住宅がたくさんあるわけです。そうするとその人たちは生ごみをコンポストそこら辺に置いてやるというわけにはいかない。農家だったらそういうことは簡単にできるんですけれども、それとまた世帯数も下條村の中では住宅というのはすごく多いところですから、私としてはこのディスポージャーをぜひ住宅のメゾンなどの住宅の方へ設置をして、生ごみをなくすと。そうすればやはりこれから暑くなってくると生ごみ置いておいて週2回出すというような手間なんか大変ですけれども、この今回のディスポージャー使うと乾燥させちゃうという形になって、2カ月ぐらいはそのまま置いとけるということになりますので、ぜひ予算の関係もあるとは思いますが、取り入れていた方がいいんじゃないかと私は思いますが、村長のお考えをお願いします。

○議長（村松 積） 伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） まさにそのとおりでございます、若い人たちにも快適な環境を作ってやらなければいけないということでございます。

この成果が出ましたら、今取り付けるところでございまして、3月中に取り付けちゃうわけだな。それを見て何とか前向きに取り組む気概で今からおるわけでございますので、またひとついろいろなご提案をお願いしたいと思います。